

C-22 簡易化による被服構成に関する研究(第20報)

—女単長着の留めについて— 県立島根女短大 ○岡 綾子、野津哲子

●目的 女単の留めについては、従来行なわれている「杓い留」等の強度は、すでに識者が実験し報告済みである。が今回は操作も容易で、外観上も美しい「引き抜き留」の強度について、従来の「杓い留」等と比較する為には本研究を行なったので報告する。

●方法(1)試料

・用布-----市販のゆかた地

・用糸-----手縫い用綿糸、20/2。用糸の選定は用布を破損しない強さの限界のものを用意実験の結果のうち選んだものである。

(2)操作方法 針目のピッチは3mmとし±0.1mmとした。「杓い留」は縫目方向に対し、90度。45度。並行の3種とし、杓つた針への糸かけは2回巻き、1回巻きの2種とした。「引き抜き留」は縫い目を返し留めとしたのち、縫い目に並行に折り寄せ山に、両面より当て布(20mm×20mm)をして20mm杓い留め糸をしっかりと結び、留め糸は2本取りと1本取りの2種とした。

以上の「杓い留」、「引き抜き留」共、各々を5回の繰り返し実験とした。

●結果 「杓い留」では45度の2本巻きがやや強い傾向を示している。「引き抜き留」ではどの「杓い留」よりも強い値を示している、更に閏留、虫留、蝶留にも劣らない強度を示した。この方法はゆかたから発展して、ワール地や上質布地に活用できることも関連上見逃がせないし、操作が容易なことからして本学での指導に効果を上げ得たと考えられる。